

京都教育センターとは

京都教育センターは、1960年9月24日に当時の小林日教組委員長らを来賓に迎えて設立のための第1回評議員会が開かれ、京教組第11回定期大会で設立を決定しました。「研究所」ではなく「センター」と命名したのは、単なる研究活動にとどまることなく、運動との連携を密にすることを意識したことにあります。

設立時の役員は、代表者：細野武男（立命館大学）、評議員会議長：立川文彦（京都大学）、調査研究委員会委員長：安永武人（同志社大学）、研究員：奥田修三（立命館大学）、事務局員：寺島洋之助（京教組）、顧問：末川博、田畑忍、恒藤恭三の各氏でした。

京都教育センターは、今までの教研活動の成果を整理し発展させ、すぐれた実践を法則化し、労働者・青年・父母の要求にこたえる教育をうちたてるための研究と実践のセンターを目的とし、京都の学者多数の援助を得、労組・民主団体・政党にひろく参加をよびかけ、それぞれの教育要求を反映して運営することを原則としています。

60年代後半には全人教育実践の三本柱「科学的認識・集団主義・全面発達」の提言をまとめ、全国的に注目されました。



【第37回京都教育センター研究集会より】

京都教育センターの活動紹介

■京都教育センターでは主に次のような活動を行っています。

1. センター研究集会（年一回：07/12/22～23）と公開研究会（年数回開催）
2. 8研究会が定例研究会を開催（事務局担当者）
 - ①地方教育行政研（市川哲）
 - ②生活指導研（築山崇）
 - ③学力・教育課程研（小野英喜）
 - ④発達問題研（西浦秀通）
 - ⑤家庭教育・カウンセリング研（光木和子）
 - ⑥高校問題研（磯崎三郎）
 - ⑦子どもの発達と地域研（姫野美佐子）
 - ⑧教科教育研・国語部会（浅尾紘也）
3. 京都教研集会に共同研究者を配置：現在120名の研究者を擁する
4. 教育季刊誌「ひろば」を発行（年4回）：約1100名の読者に届ける
5. センター通信を復刊発行（毎月はじめ）：[1面] 学者研究者の主張 [2面] 私の授業づくり（現場教師） [3面] 私の学級づくり（現場教師） [4面] センター報告とお知らせ 全組合員に配布
6. 情勢に見合う時機を得た学習会の開催（今年は教育基本法改悪以降の情勢）と運動
7. ホームページをご覧ください [週に2回更新しています] <http://www.kyoto-kyoiku.com>
8. 資料収集：戦後の教育関係資料、組合関係資料、教育関係書籍・年史など（資料室あり）閲覧可能

◆事務所は旧教育会館（駐車場横）の2Fです。

TEL & FAX 075-752-1081 メール kyoto-kyoiku@asahi-net.email.ne.jp

◆常勤体制ではありませんが、（月・水・土の10時～16時は開館）

◆事務局メンバー 野中一也（代表） 室井修（副代表） 築山崇（研究委員長） 春日井敏之（「ひろば」編集長） 大平勲（事務局長） 市川哲 高橋明裕 中須賀ツギ子 倉原悠一 深澤司 中西潔 浅井定雄 小田美貴子

